

「 2017 年度私立大学図書館協会 海外認定研修 (B) 報告  
～米国図書館の施設と取り組みの紹介～」

広島修道大学図書館 八木 祐己

2017 年 6 月 19 日～26 日に ALA (米国図書館協会)・米国図書館研修に参加し、ニューヨーク・シカゴの大学図書館、公共図書館を視察した。

訪問時、ニューヨークとシカゴの各大学図書館では特色ある取り組みが数多く行われていた。例えば、ニューヨーク近郊のラトガース大学バトラー図書館で行われていた資料の電子化である。資料を電子化するための施設が敷地内にあり、このプロジェクトに参加した学生は大学から単位が付与される仕組みが確立されていた。このことから大学、教員、学生、図書館全体でプロジェクトを推進していることが分かった。

また、シカゴのロヨラ大学では大学図書館と情報センターの融合施設を備え、デジタル情報資源の取扱いを学ぶ情報リテラシー学習を新入生の必須科目とするなど、デジタル関連教育に力を入れていた。

公共図書館においては、市民のニーズを踏まえた図書館運営を行っていた。ニューヨーク公共図書館は『図書館への投資はニューヨーク市民への投資だ』というモットーを掲げ、市長や市民に寄付を呼びかけることで定期的に改修を行い、伝統的で荘厳な雰囲気だが快適に読書ができる空間を提供していた。また、シカゴ公共図書館は 10 代専用の技術ルームやモノづくりが体験できるラボ、乳幼児から小学生を対象としたチルドレンルームを完備し、市民が主体的に体験し学ぶことのできる場所作りを行っていた。

今回の発表では、ニューヨーク・シカゴの各図書館の特色ある取り組みや ALA (米国図書館協会) の活動の様子を写真や動画で紹介し、選書方針についても触れる。

研究発表 1

「知との出会いを演出する ～近畿大学アカデミックシアターの試み～」

近畿大学中央図書館 玉川 恵理

近畿大学は「近大をぶっ壊す!」「近大は近大を超える!」をキャッチフレーズとして、2014年より本部キャンパスの大規模整備計画「超近大プロジェクト」を始動した。その第1期工事の中心施設として2017年4月に完成したのがアカデミックシアターである。アカデミックシアターは1～5号館の5つの建物からなる複合施設であり、約7万冊の本を所蔵する5号館＝ビブリオシアターがその中央に広がっている。

ビブリオシアターは“従来の大学図書館にない、全く新しい考えをもった図書館”をコンセプトとして作られた。全面ガラス張りの建物には、十進分類法にとらわれずにセレクトした本がテーマごとに並んでいる。1階には一般教養書など3万冊を所蔵し、2階には約2万2千冊のマンガを中心とした4万冊を所蔵。マンガを入り口として知識や好奇心を広げていく読書法を推進している。

今回の発表では、開設から1年を経過したビブリオシアターの利用状況を報告し、ビブリオシアターのテーマ別選書法である“近大INDEX”や、マンガを取り入れた読書法“DONDEN読み”についてご紹介する。

## 学生を中心とした選書の方法と実践

金沢星稜大学図書館

馬場 治

平成 24 年 9 月メディアライブラリー竣工。金沢星稜大学図書館は、図書館機能と情報メディア機能を集約して、「知る、深める、つながる」の知的活動の拠点として利用者にとってより魅力ある施設となった。例年 4 月 5 月は、新入生を対象に館内で図書館ガイダンスを実施。館内ツアーでは利用マナーや利用方法、グループ学習室などの設備を案内する。ツアー後には自動貸出機を使った貸出も体験。ガイダンスをきっかけとして学生が存分に図書館を活用できるよう支援している。更に「SEIRYO JUMP 自分を超越する力をつける」を合言葉に、「学生が主役の大学」を標榜する本学は、図書館の選書においても学生の積極的な関与を促している。今回は以下の活動を紹介しつつ、選書の方法と実践について検討し、教職員と学生が協働する大学図書館における蔵書のあり方について模索する。

### A 学生選書ツアー

市内書店の協力を得て企画。前期後期各 1 回の実施。対象は学部生・短大生・大学院生、先着 15 名のボランティア。参加者は書店に出向き、図書館に置いてほしい本を直接手に取って選ぶことができる。図書館における現物選書を体験し、選んだ本の POP を書いてもらう。

### B ゼミナール選書ツアー

ゼミ担当教員の指導の下、学生がゼミの研究テーマに沿って必要な本を選ぶ。

### C ビブリオバトル

「人を通して本を知る、本を通して人を知る」ビブリオバトル（知的書評合戦）を開催。本の魅力を参加者の視点で伝え、読みたくなった本（チャンプ本）を投票して決定する。これまで触れることのないジャンルに興味を広げるきっかけとなる場を提供すること、本を通してこれまで関わることのない人と言葉を交わすことを目標とする。

### D つながる図書館プロジェクト

学生と教職員が連携して行う本学独自の学生支援プロジェクト SJP (SEIRYO JUMP PROJECT) の一環。学生メンバーが主体となって図書館を活性化する様々な事業を企画。第 19 回図書館総合展のポスターセッションへも出展。

(本文 800 字)

<Web 選書と電子書籍の相乗効果>

株式会社紀伊國屋書店 ICT 営業本部 収書支援システム部 戸枝 昭

新刊など書籍の販売情報は、取次・出版社等が発行するカタログ等の紙媒体、また Web を通じて入手できますが、実際の発注業務においては、図書館システム等へのタイトル入力作業が必要で、手数とタイムラグが発生します。また予算や重複などの確認作業があり、決裁など紙による事務手続を要する場合も多いと伺っています。

Web 選書支援システム「SmartPLATON」は、最新の在庫・価格情報を備えた出版流通書誌から書籍を検索・選定することを起点に、予算や重複確認を経ての発注をワンストップで行うことができます。また、本年搭載した学術電子図書館「KinoDen」は、SmartPLATON から検索・試し読み・発注ができるようになっています。

SmartPLATON に昨年搭載した「PLATON ウィークリー」を活用した、大学図書館での新刊選書の事例について、紹介します。続いて、「紙と電子の選択収書」について、KinoDen タイトルの「試し読み」機能と合わせて紹介するとともに、Web 選書と電子書籍の相乗効果について、今後の展望や課題を挙げてみます。

まとめとして、Web で選書することの利便性について一通り整理して、ご意見を伺いたいと考えています。